

株式会社エフティートレーディング

黒河内様宛

ロバート・レッドフォードが監督した佳作で「クイズ・ショウ」という映画があります。1960年代を舞台にした映画。その冒頭で、主人公の一人が、自動車ディーラーに赴き、ばかどかい「アメ車」をしげしげとみつめ、そして、乗り込み、ハンドルを握ります。

「どうですか？ 一台。最新式なんです」

「だめだよ。こんな高い車は買えない」

そして、その主人公は、ラジオのスイッチを入れる。アンテナが自動的に出て、音楽がなり始めます。AMの電波。主人公は、その音楽を聴いて、悦に浸ります。

車の中で、音楽を聴くことの楽しさを象徴するシーンで、私は、とても好きです。

☆★☆☆

私と PHASS とのおつきあいは、先代の愛車だったシトロエン・エグザンティアから。ステーションワゴンでした。私は、上質の「音」で、好きな音楽に包まれながら、ドライブをすることを、無情の喜びとしています。なので、カー・オーディオに手を加えるのは、必然でした。

いまは、オーディオも進化し、価格的にも100万円を超えるシステムまで、存在します。私は、いくつかのカー・オーディオ店を回ってそれらの「音」を聴いてみました。どれも素晴らしい音質でした。でも、なんとなく、しっくりこない。その理由が分からないままに、月日が経って、PHASSに出会いました。

素晴らしかったのは、そのナチュラルな音質でした。「ロボットの音」で

はない、「人間の音」。私が探し求めていた「音質」がありました。

ちょっと話はそれますが、面白い話があります。

実は、私は昨年新居を構えたのですが、その際にピアノを購入しようと思
い立ちました。グランド・ピアノです。

で、ブラン・ニューのピアノを「慣らす」だけの体力はもうないので、
懇意にしていた、調律師に「何か出物を。安いヤツ」と頼んでいたら、ス
タンウェイのBなどというシロモノが、届きました。

「だめだよ、スタンウェイなんて買えないよ」

「あっ、輸送費込みで100万円がいいです」

事情は、こうでした。そのスタンウェイには、五月人形のように「家紋」
が掘られてしまっていて、なので、販売価値がないから、安値でよい、と
のことでした。

調律師に聞いたら、日本は、今、世界中のどこよりも、スタンウェイがあ
まっているのだそうで、これは、バブルの遺産。狂ってます。

スピーカー開発者の黒河内様なら、おわかりの通り、日本は高温多湿。ス
タンウェイは、素晴らしいピアノに違いありませんが、よく響くのはヤマ
ハヤカワイです。ブランドが、音をよくしてくれるわけではありません。
そのピアノを「つくった人」と「鳴らす人」の息が合ったときに、素晴ら
しい、そして、心に響く音が生まれるという、この単純な「常識」が消え
去ろうとしています。

私は、デジタルを否定しません。ただ、デジタルだから「よい音」という
単純な発想は、ありません。

「音」は、人が聞くのです。人間は、デジタルではありません。

☆☆☆

「このスピーカーの開発者は、スペックではなく、自分が聞きたいと思う

よい音」

を、開発のコンセプトにしていると思いました。つまり、自分勝手(笑
私は、そういう製品が大好きです。

☆☆☆

昨日、私の新車となる、シトロエンC4クーペが、名古屋に届いたとの報
せが、ディーラーから届きました。

今回は、一番小さい、高価でないパワーアンプを、かませようと思ってい
ます。カーオーディオに、100ワットもいないし、御社のスピーカーは、
あくまでも感覚的な表現ですが、低音があれだけ鳴るのに、中音の輪郭が
素晴らしいほどくっきりとしていて、「測定器で測る以上に大きな音」が
出るからくり？ があるので、そんなに苦勞はしないと思います。そう、
PHASSは、測定器ではなく「人間の耳」で作られた、スピーカーなんです。

☆☆☆

今、C4クーペは、「職人」の工場長がいる、電装屋さんにあります。エグ
ザンティアから、C4クーペにPHASSを移植するのです。

今の楽しみは、最初のどのCDをかけてみようかということ。マスカ
ーニのオペラ？ それとも、レッド・ツェッペリン？ とても楽しい時を
過ごしています。

久坂 裕（小説家）